

令和3年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立岐南工業高等学校

学校番号 10

I 自己評価

1 学校教育目標	<p>1 校訓「創意実践」のもと、知・徳・体の調和を目指し、心豊かで、創造力・実践力のある産業人を育成します。</p> <p>2 全ての教育活動を通して「自立力」「共生力」「自己実現力」をバランス良く身に付けた人づくりを目指します。</p>	
2 評価する領域・分野	◇教育課程・学習指導	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<p>『生徒対象アンケート結果』 下記の(1)～(4)の各問に「あてはまる」と回答した生徒の割合 (1)「熱心に学習指導・生徒指導などに取り組んでいる先生が多い」 92%(R1)→92%(R2) →93%(R3) (2)「専門的知識が豊富であり、授業内容について信頼できる先生が多い」 91%(R1)→91%(R2) →94%(R3) (3)「授業の教え方や説明が分かりやすい先生が多い」 ○85%(R1)→80%(R2) →89%(R3) (4)「本校の先生は授業等を通して一人一人の能力に応じた指導を行っている」 ○80%(R1)→81%(R2) →86%(R3) ・上記は授業に関する生徒アンケートの3年間の推移である。全体的に数値が上昇した。コロナ禍の影響により、オンライン授業など、平時と異なる授業においても各教員が熱心に指導し、それを多くの生徒が好意的に受け止めている状況が読み取れる。</p> <p>『保護者対象アンケート結果』 下記の(1)～(4)の各問に「あてはまる」と回答した生徒の割合 (1)「職員は、学校経営や教育活動に熱心に取り組み、魅力ある学校づくりの意気込みが感じられる」 92%(R1)→87%(R2) →89%(R3) (2)「教職員は授業を通して、学力が向上するように指導している」 87%(R1)→84%(R2) →86%(R3) (3)「学校は出来るだけ選択授業や少人数授業を行い、生徒の理解を高めようと努力している」 ○77%(R1)→79%(R2) →84%(R3) (4)「授業を通して一人一人の能力に応じた指導を行っている」 ○84%(H30)→79%(R1)→71%(R2) →86%(R3) ・上記は授業に関する保護者アンケートの3年間の推移である。全体的に数値が上昇したものの、保護者に本校の学習活動について理解を得られるよう改善が必要である。</p>	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇生徒の学習意欲を高め、確かな学力を身につけさせる。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・教務部、工業部、進路指導部、生徒指導部が連携し推進する。	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<p>(1) 理数系科目の7限目授業を実施する。</p> <p>(2) 基礎学力が不足している生徒は、学びなおし学習会で個別指導を行う。</p> <p>(3) ICTを活用した授業の実践・研究する。</p> <p>(4) 公開授業や職員研修会などにより、職員同士が学び合い、指導力の向上を図る。</p>	<p>① 生徒による授業評価の結果</p> <p>② 生徒・保護者のアンケート結果</p> <p>③ 基礎力テストの結果と分析</p> <p>④ 研究授業・公開授業の教員間評価や感想</p> <p>⑤ 研究授業・公開授業・職員研修の実施件数</p>	

<p>(5) 全職員の共通理解のもと、規律ある授業で学力向上を推進する。</p> <p>(6) 外部活力を活用したキャリア教育を充実させ、進路希望に応じた進路指導を行う。</p> <p>(7) 学校活動の中で岐南工手帳を利用しポートフォリオ化を図る。</p>		
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<p>(1) 朝学習を年間通して実施するとともに、学び直し学習会による個別指導を実施した。</p> <p>(2) 生徒の実態を踏まえた上で、進路実現に適する学習教材を研究し、検討・選定を行った。</p> <p>(3) 積極的なICT機器の活用に向け、環境整備とともに職員研修の充実に努めた。</p> <p>(4) 「課題研究発表会」で本校の学習に関する教育活動を評価する機会を設定した。</p>	<p>① 生徒による授業評価の結果が向上したか。</p> <p>② 生徒を対象とするアンケートの結果が向上したか。</p> <p>③ 保護者を対象とするアンケートの結果が向上したか。</p> <p>④ 不良科目の生徒数は減少したか。</p>	<p>Ⓐ B C D</p> <p>Ⓐ B C D</p> <p>A Ⓑ C D</p> <p>A Ⓑ C D</p>
11 成果課題	<p>○ 昨年度と同様に、朝学習を実施することができた。また、個別指導を実施することで、基礎学力に不安を感じる生徒に対するフォローもできた。</p> <p>○ 「課題研究発表会」において、工業高校の特色である実践的、体験的な学習活動を通し課題解決力の向上とともに、地域産業を支え社会に貢献しようと主体的、協働的に取り組む姿勢を育成する教育に外部から高い評価を得た。</p> <p>▲ コロナ禍において登校できない生徒に、いち早くオンライン授業等を実施することができた一方で、機器に苦手な教員はICT機器を利用する頻度が少ない。</p>	
<p>12 来年度に向けての改善方策案</p> <p>(1) ICTを活用した授業研究会の計画的な実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用した授業の公開や授業研究会などにより、教員の教科を跨いだ学び合い、授業の技法を高め合う。 ・授業アンケートを複数回実施・検証し授業改善に繋げる。 <p>(2) 外部の教育力の活用と評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究成果のプレゼンテーションでは、内定先企業や進学先の大学の方を審査員としてお招きし、講評をいただいた。このような機会を多く設定し、本校の強みと弱みを把握することで、教育活動を改善する。 		

II 学校関係者評価

実施年月日 令和4年2月10日

・就職内定をした生徒の学校での様子やものづくりでの活躍を知り、企業採用担当者として大変うれしい。このような舞台で発表を通して得た経験を、就職先企業でも発揮して活躍してほしい。

・工業高校の特色である実践的、体験的な学習活動を通し、課題解決力の向上とともに、地域産業を支え社会に貢献しようと主体的、協働的に取り組む姿勢を育成していることを高く評価したい。

2 評価する領域・分野	◇ 生徒指導(含む教育相談)
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<p>『生徒対象アンケート結果』</p> <p>下記の(1)～(4)の各問に「あてはまる」と回答した生徒の割合</p> <p>(1) 「悩みや相談事に親切に対応してくれる先生が多い」 ◎83%(R1)→84%(R2) →91%(R3)</p> <p>(2) 「本校では、人間としての基本的なモラルやマナーを身につけさせようとしている」 95%(R1)→93%(R2) →95%(R3)</p> <p>(3) 「本校では、社会のルールにふさわしい服装、頭髪指導を行っている」 ○94%(R1)→92%(R2) →96%(R3)</p> <p>(4) 「本校の生徒は、誰に対しても自然に挨拶が出来る」 90%(R1)→87%(R2) →91%(R3)</p> <p>・上記は生徒指導に関する生徒アンケートの3年間の推移である。(1)のアンケート結果から、本年度は特に教育相談的な対応に対して「あてはまる」と回答する生徒が増加している。</p> <p>『保護者対象アンケート結果』</p> <p>下記の(1)～(3)の各問に「あてはまる」と回答した保護者の割合</p> <p>(1) 「学校では、教育相談係が個々の生徒に対して適切な指導を行っている」 89%(R1)→85%(R2) →86%(R3)</p>

	<p>(2)「学校は、高校生としてのマナーや社会規範を身につけさせる指導を行っている」 99%(R1)→92%(R2) →96%(R3)</p> <p>(3)「学校は、高校生としてふさわしい服装、頭髪等の指導を行っている」 99%(R1)→95%(R2)→96%(R3)</p> <p>・上記は生徒指導に関する保護者アンケートの3年間の推移である。生徒アンケートと同じく、マナーや社会規範を身に付けさせる指導や身だしなみ指導に理解をいただいている。(1)の教育相談の問では、「わからない」と回答される保護者が11%と多く、保護者への情報提供が必要である。</p>	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<p>具体的目標 ◇(1)時を守り (2)身をただし (3)元気に挨拶 (1)遅刻の減少→社会人基礎力の育成、交通事故の減少 (2)身だしなみ指導→社会人基礎力の育成、規範意識の向上 (3)元気に挨拶→コミュニケーション能力の向上と生徒理解 ◇教育相談の充実</p>	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<p>・生徒指導部、教務部、工業部、進路指導部が連携し全教職員で推進する。</p>	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<p>(1)登校指導時の交通安全、遅刻、身だしなみの指導。 (2)教育相談(特別支援等)の研修を行う。 (3)ホームページや学校メール等を活用し、保護者に情報提供をする。</p>	<p>①昨年度の統計との比較と分析 ②教育相談的指導の改善 (いじめ・不登校等早期対応) ③指導生徒の改善(身だしなみ、遅刻、欠席)</p>	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<p>(1)遅刻指導では「遅刻改善用紙」「生活改善用紙」を用い、遅刻原因の分析や生活改善を促した。 (2)マナーアップウィークを設定し、授業中の規範意識と挨拶を高める指導を行った。 (3)頭髪指導については、外部機関、生徒会と協力し、時代に即した校則の見直しを行った。 (4)スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー事業を積極的に活用する。欠席者に対する対応方法を教育相談、保健室、図書館と連携をとり支援が必要な生徒の早期対応を行った。</p>	<p>①遅刻者数は減少したか。 ②落ち着いた雰囲気、朝のスタートができたか。 ③校則について外部の意見を取入れ検討できたか。 ④スクールカウンセラーとともに組織的に生徒をサポートできたか。</p>	<p>A <input checked="" type="radio"/> B C D A <input checked="" type="radio"/> B C D <input checked="" type="radio"/> A B C D A B <input checked="" type="radio"/> C D</p>
11 成果・課題	<p>○遅刻者数、交通事故件数ともに減少傾向にある。例年と違い、コロナ禍のため入学当初の指導ができず、4・5月の1年生の遅刻者数、交通事故件数が多くなった。毎日の指導の積み重ねの重要性を痛感した。交通マナーについての苦情に対し、警察署と連携するなどして、規範意識の向上に努めた。</p> <p>○頭髪については、以下のように多くの方の意見を取り入れ、本校の指導の在り方について方針を定めることができた。 生徒:アンケート・生徒会 保護者:岐南エフォーラム 企業:採用担当者・美容院専門学校 ▲多くの先生による登校時の挨拶運動や、マナーアップキャンペーンでは授業開始・終了時の挨拶の励行をしたが、生徒のアンケート結果からも満足のものではなかった。 ▲教育相談は、SOSの出し方に関する教育の実施やケース会議の開催など、多くの先生方の協力があり機能していると思う。しかし、月に1・2回来校されるスクールカウンセラーにおいては、時間的な制限により、カウンセリングのみとなり、見立て、助言、援助と踏み込んだ支援が得られなかった。</p>	
12 来年度に向けての改善方策案	<p>(1)交通事故件数の減少 命に関わる大切な指導であるため、交通事故への危険予知動画や自転車運転のマナーについての題材を積極的に取り入れ、入学当初よりLHR等で実施していきたい。また、Webや動画に情報モラル講話を実施する予定があるので、題材を充実し、検証していく必要がある。</p> <p>(2)長引く感染症対策による休校などにより、欠席・遅刻に対する意識の低下への対応 マナーアップウィーク等の実施、5分前着席の徹底により、遅刻や身だしなみについて規範意識を高め、規律正しい高校生活の定着を図る。</p> <p>(3)教育相談の充実 いじめや不登校等の早期発見・早期対応を心がけ、事後の対応についても、スクールカウンセラーやSSW等を活用し、教育相談の充実や教職員間の連携を密にして情報共有に努める。</p>	

II 学校関係者評価

実施年月日 令和4年2月10日

・長引くコロナの影響は、生徒に生活面、学力面に大きな影響が出ていると推察する。リモートや授業時間の不足は大きな不安となって精神的なストレスにもなっていると思うので、様々なアプローチで心の安心を保ってほしい。
 ・資料から読み取ってみても、先生方の苦勞が見え、頭が下がる。また、先生方の説明から、改めて、卒業生の親としてこれだけ生徒を想い、指導をされていることをありがたく思う。

2 評価する領域・分野	◇進路指導	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<p>『生徒対象アンケート結果』 下記の(1)～(3)の各問に「あてはまる」と回答した生徒の割合 (1)「本校では、生徒に適した進路情報を示し、生徒の可能性を引き出そうとしている」 ○89%(R1) →90%(R2) →94%(R3) (2)「本校では、生徒の将来の希望に沿った具体的な進路指導が行われている」 ◎90%(R1) →87%(R2) →94%(R3) (3)「本校では、マナーやコミュニケーション能力を高め、産業人としての資質を養う指導がなされている」 ◎85%(R1) →83%(R2) →91%(R3) ・上記は、進路に関する生徒アンケートの3年間の推移である。卒業後の進路は決定に向けた本校のキャリア教育に対し改善傾向が見られ、多くの生徒が信頼を寄せていることが伺える。</p> <p>『保護者対象アンケート結果』 下記の(1)～(3)の各問に「あてはまる」と回答した保護者の割合 (1)「学校は、進路説明会等、保護者が必要とする進路情報を提供する場を設けている」 93%(R1) →78%(R2) →81%(R3) (2)「学校は、生徒の進路に沿った適切なアドバイスをしてくれる」 89%(R1) →76%(R2) →82%(R3) (3)「学校は企業見学など機会を通じて職業観や勤労観の育成に努めている」 ▲96%(R1) →88%(R2) →87%(R3) (4)「学校では、マナーやコミュニケーション能力を高め、産業人としての資質を養う指導がなされている」 89%(R1) →87%(R2) →90%(R3) ・上記は、進路に関する保護者アンケートの3年間の推移である。コロナ禍のため、進路に関するガイダンスや企業訪問の中止が回答に大きく影響している。「わからない」という回答が10～15%程あることから、保護者への進路情報提供の在り方について課題が明確となった。</p>	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	(1) 進路実現のための計画的なキャリアサポートの実施 (2) 1年生から進路を明確にした進路ガイダンスの実施 (3) 企業が求める基礎学力とコミュニケーション能力の向上を目指した、新たな学びの導入	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・進路指導部、教務部、工業部、生徒指導部が連携し全教職員で推進する。	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 外部活力の積極的な活用 (2) 1年生から進路目標を明確にし、各学年の発達段階に応じた内容を検討してガイダンスの実施 (3) 教務と連携し、協働学習を意識した授業の推進	①基礎学力診断テストの結果 ②全職員による朝学習の取り組み達成度 ③学び直し学習のために、Webを介した学習教材を導入し実施 ④昨年度の統計との検証	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
(1) 各学年において、重点目標を定め、目標に向けてガイダンス等を実施した。	①朝学習の到達度	A(Ⓑ) C D

(2) インターンシップ(2年生全員3日間)の実施 (3) 外部の教育力活用による研修や企業見学の実施 (4) 四年制大学進学者へ学力向上に向けた取り組みの実施	②基礎力テストの結果 ③各学年重点目標の達成度 ④課題の進捗状況、達成度	Ⓐ B C D A Ⓑ C D A B Ⓒ D
11 成果・課題	○就職希望者の一般企業の内定率は、今年度も100%を達成することができた。 ○昨年度の反省を生かし、コロナ禍ではあったが工夫を重ね、インターンシップ、企業見学卒業生と語る会、コミュニケーション向上研修、各種講習会等を実施し、進路支援の継続的な取組ができた。 ▲四年制大学進学に対応したカリキュラムの編成や、Webを介した学習教材の導入などを行っているが、学力の向上が課題となっている。推薦入学を希望する生徒には、基礎力テスト、各種検査の結果と合わせて個に応じた適切な指導を行いたい。	総合評価 A Ⓑ C D
12 来年度に向けての改善方策案 (1) より一層、生徒一人一人が、自らの学習状況やキャリア形成を見通すことができ、振り返ることもできる働きかけを研究する。 (2) 工業科職員だけでなく、普通科の教員も就職指導ができるよう、キャリア教育に関する職員研修の充実を図る。 (3) 進学者に対する学習指導など本校の進学指導の在り方を研究する。		

II 学校関係者評価

実施年月日 令和4年2月10日

・本年度より実施した「海外交流プロジェクトConnecting the New World」については、海外で活躍される方との交流を通し、生徒に自信と希望、広い視野を持つことで無限の可能性を感じ、自身の将来を考える機会としてほしい。

・コロナ禍で様々な制限があるが、引き続き岐阜市、大学、地元産業界との連携やものづくり推進事業への参加を継続することが望ましい。

・入学定員を満たない状況は、地域産業を担う人材不足を招き、ものづくりの技術を次世代へ伝承することができず、結果として、地域製造業の活力の低下をも引き起こしていることを共通認識できた。